博100 進む新潟博の準備

前売り券売り上げも順調

ことしの夏、新潟市で開催される開港百年・県政復興記念新潟大博覧会の準備がいま着々と進められています。またこれに関連して周辺の道路整備なども行なわれています。そしてこれまでの百年をかえり見て、将来のことを考えようと、県民全体で博覧会を成功させようとムード盛り上げを行なっています。

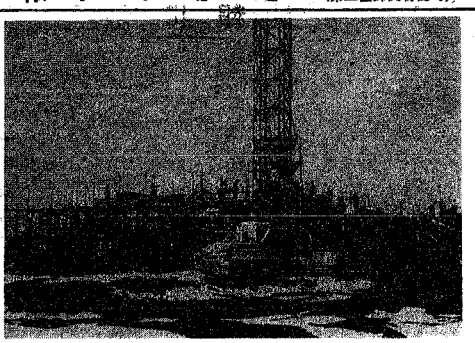
現在博覧会会場になる新潟市松波町海辺の整地もほぼ終わり、博覧会の終了後も永久施設として、市で管理され一般に開放されることとなっている、水族館とプールの建設がいま急ピッチで行なわれています。

まだそのほか子供のために設置されるおもちゃの城も日本玩具の優秀製品を一堂に集め、楽しみながら夢と希望を子供に与え、情操教育にも役立てようとその内容の検討が急がれています。

それにテーマ館の一つになる開港百年新潟港館に積極的な協力をしていただいている、第九管区海上保安部が古い新潟港の海図を発見するなど、貴重な資料も蒐集されています。

一方博覧会場に通ずる周辺道路の整備も行なわれていますし、県内外へのPRも積極的に行なおうとその準備を急いでいます。

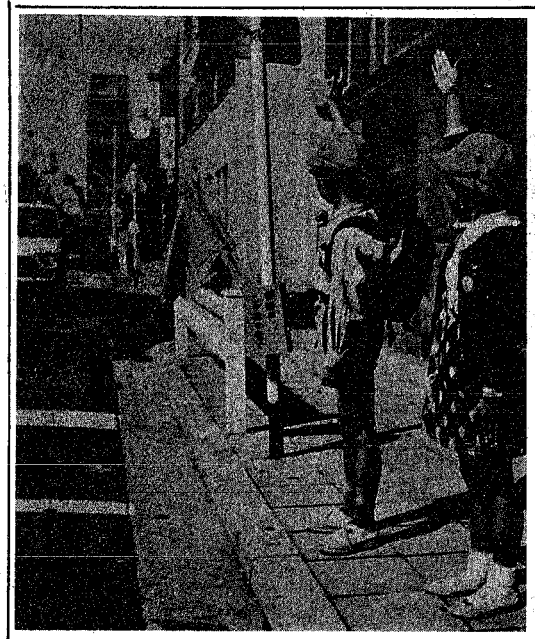
さる二月一日前売り券のムーンレイクによる第一回抽選会には、約二十二万通のハガキが事務局に届きました。現在前売り券は約二千万枚以上売り捌かれたと見込まれています。



急ピッチで進められている水族館の建設

経費としておちる前売り券

博覧会事務局では、前売り券を会社員の福利厚生のため、無償で与えたときは、福利厚生費、また、営業用としてお得意に贈与したときは、その額が交際費のわくの内であれば交際費として処理できるので、どうぞご利用をといっています。



新入学児の交通指導

入学前に登校訓練を

新学期から市内に約千五百人の新一年生が誕生します。

最近は自動車のラッシュで、交通事故の危険が増してきますといまそこで児童の交通指導に大きな効果を上げている、南万代小学校（校長高橋総男氏）にその指導方法と入学前のしつけについて、いろいろお聞きしました。

――入学前に子供に教えておかなければならないことは……。

交通量の激しい所が多いので、おかあさんといっしょに通学道路を何回も歩いて、危険な所を覚えさせる。特に横断歩道の渡り方や帰り道にはぐれたり道路にはみだしたりしないように、教えてほしいと思います。

――入学してからは、どんな指導をするのですか。

入学式で警察官の指導で登校訓練をします。

――児童の登校はどんなふうに実施指導をしているのですか。

六年生をリーダーにして、班毎になって登校しています。一番危険なのは、帰り道ですから父兄と協力して校区内所で、交通指導を行なっています。

――効果をあげるために、どんな方法をとっておりますか。

指導してみさるを父兄の皆さんに感謝して、あいさつするとかマナーも教えています。それに一年生は、最初は緊張していますが、なれてくると事故を起しやすいので、おとなが注意したら素直に聞くように指導しています。交通安全は、学校とPTAとそれに地域ぐるみでなければ協力して効果をとげています。

市水道局では、西新潟高台の給水不良地区を解消しようと、現在水道管の敷設工事を行なっています。

同地区は災害復旧と拡張工事による新水道管が、既設の水道管より大きいため、接続の関係で通水が円滑にいきませんでした。

このため一月十四日から五月一十日まで、新潟大学理学部わき、西船見町、二葉町、四ツ屋町などで工事が行なわれます。

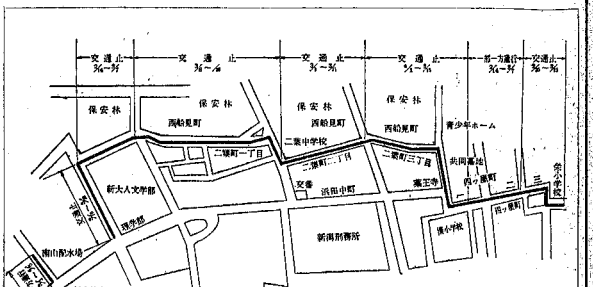
水道局では、この工事は区間ごとに行ないます。そして一定期間について、父兄にも参観していただき実践指導をします。

交通制限を行ない、市民の皆さんに迷惑をおかけしますが、協力を、といっています。

また臨時開断をすることなく工事を進めるようにしますが、断水のときは、そのつど広報紙でお知らせすることになっています。

水道管敷設工事

給水不良解消のため



勤労青少年ホーム

利用証の書替えを

勤労青少年ホームも開館してから一年になりますが、適日利用者でにぎわっています。

利用者の皆さんがいま持っている緑色の利用証の有効期限が、三月いっぱいで切れることになりました。

そして新年度の四月一日からは竹色の利用証になります。このため書替えの申請用紙（ホーム備え付けあります）で申し込みをしてください。

新しい利用証を持っていませんとホームを利用することができません。

また勤労青少年ホームでは、ことし中・高校を卒業して市内の中小企業に就職される皆さんも、ぜひホームの楽しいふんいきを満喫してほしいといっています。

利用を希望される人は、利用証交付申請用紙に勤務先の証明をしてもらって提出してください。

市長雑感

特殊学級展と優生学

○…昭和三十年十月新潟火の直後、私のところへ五人の奥さんが、それぞれ子供を連れて陳情に来られた。子供たちは十五歳位だろうか、ひとりもちえ遅れの子供とわかった。母親の陳情は精神薄弱施設についてで「私たちはこの子供を残して死んでも死に切れない」と真剣そのものだった。当時国でも重い腰を上げて、精神薄弱児を取り組む姿勢を示し、施設を全国に五カ所建設することになった。そこで新潟市にぜひということで、その熱意が認められ明年度に建てられた。あれから十年、ローターリー松波・藤見園と施設は一応形を整い、市民の皆さんから理解されるようになった。

○…ことしの一月十日から開かれた市内の小・中学校の知能指数が低い特殊学級の児童が製作した、絵と版画などの作品展を拝見したが、その作品の出来栄えのりっぱなのに驚くと共に、指導された先生方と母親の皆さんの苦労を考え、頭のさがる思いがした。私は小学校時代に学校に楽しく取り組まれていた問題児がいたのを思い出したが、これ位親の頭でも家庭のよしとする観察がない。しかとかく社会から取り残されていた。昭和三十年頃に様の工夫

○…先日新潟市婦人会の総会に出席した。婦人会はいままでも社会のためいろいろな活動をしているが、特殊学級の児童が生まれて子供をもつ母親である。生まれた子供をもつ母親である。生まれた子供をもつ母親である。生まれた